

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
哲学 Philosophy		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	( )	外国人学生は高い日本語技能が必要である
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
廣澤 圭則		授業時間外		授業中に指示します
授業の概要				
哲学について、西洋思想を中心に古典から近代までを講義形式にて実施する。				
授業の目標				
哲学とは正解のない問題である。  その正解のない問題を生徒諸君は自分で思考し、自分の言葉で述べる事が求められる。 繰り返すが、哲学に正解は存在しないため、生徒諸君の自由闊達（かつたつ）な回答を期待している。  授業の目標は、今後の社会人生活において必須とされる「正解のない問題を思考する能力」を鍛えていくこと、「自分の考えを自分の言葉で明確に述べることのできる能力」を養うことの2点である。				
授業の方法				
パワーポイントを用いた講義形式にて授業を行う。補足教材として、作成したレジュメを授業毎に配布する予定。 哲学と絡めた歴史の講義も並行して行う。  また、第13～15回講義では生徒諸君にテーマを設定してプレゼンテーション発表を実施してもらう。				
学習の成果（学習成果）				
全15回の講義を踏まえて、自分の考えを自分の言葉で明確に述べる事が出来るようになることを、学習の成果とする。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（学習成果、成績評価等についての説明）、講義内容についての事前案内			
第2回目	古典哲学① 哲学とは何か、ソクラテス以前の哲学者たち、ポリスの発展とソフィストの出現			
第3回目	古典哲学② ソクラテスの無知の知、プラトンのイデア論			
第4回目	古典哲学③ アリストテレスのイデア論批判、倫理学と政治学、テオリア的生活			
第5回目	古典哲学④ ポリスの衰退とマケドニア王国の台頭、ヘレニズム哲学、犬儒学派、前期ストア派、エピクロス派			
第6回目	古典哲学⑤ 後期ストア派の哲学者たち、セネカとマルクス・アウレリウスの思想			

第7回目	中世哲学① ユダヤ教の誕生とキリスト教の成立、聖アウグスティヌスの教父哲学	
第8回目	中世哲学② 暗黒時代のキリスト教と十字軍、イヴン・ルシュドのアリストテレス翻訳、トマス・アキナスと普遍論争	
第9回目	中世哲学③ キリスト教の権威低下とルネサンス、プロテスタントの誕生、ルターとカルヴァンの宗教改革	
第10回目	近代哲学① フランシス・ベーコンとイギリス経験論、ルネ・デカルトと大陸合理論、帰納法と演繹法	
第11回目	近代哲学② ヘーゲル弁証法、産業革命の発生、ベンサムとミルの功利主義	
第12回目	近代哲学③ 実存主義、キルケゴールと主体的真理、ニーチェと超人思想	
第13回目	プレゼンテーションの案内 補足授業、振り返り	
第14回目	プレゼンテーション発表①	
第15回目	プレゼンテーション発表②	
事前・事後学習	不明な点があった場合は、講義前後に質問をすること。レポートでの質問も受け付ける。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業にて積極的な発言ができたかどうかで評点する。質問に対する独創的な回答については加点とする。 私語は原則として認めないため、発見した場合は密かに減点する。
レポート	20%	授業終了時に出欠確認も兼ねたレポートを提出してもらう。 授業に対する理解が反映されていた場合、加点する。
調査報告書		
小テスト		
試験	20%	期末試験を実施し、授業で扱った事項に関し、正確に学習し回答しているか評点する。
発表内容（態度含む）	30%	明確なテーマを設定し、それを自分の言葉できちんと発表できること。聴講者からの質問に対して回答できるか評点する。
その他	10%	出席について、授業開始後の遅刻は原則として認めない。 電車遅延の場合は駅から発行される『遅延証明書』を提出すれば出席扱いとする。
教科書と参考図書		
授業毎にレジュメを配布する。		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験(職種: サービス事業 職歴: 通算8年)		
発言を重んじる授業であるため、生徒諸君には事あるごとに質問を行う。そのため、生徒諸君はこちらからの質問に答えられるようにしておくこと。		